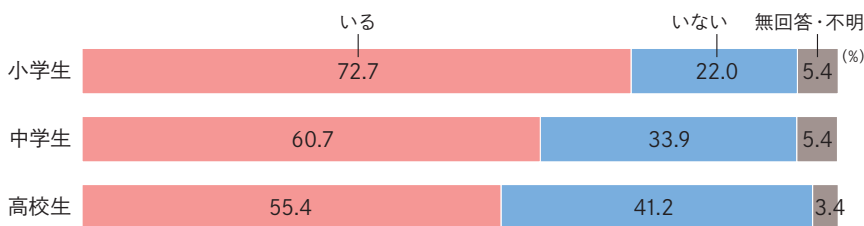


「あこがれの人」の子どもにとっての意味は？

今回は小・中・高校生の「あこがれや目標とする人」に関するデータを取り上げます。「あこがれの人」がいる子どもはどれぐらいいるのかや、その存在と子どもの将来への意識との関連を探り、子どもにとっての「あこがれの人」の意味を考えます。

1 「あこがれの人」がいるのは小学生7割、中学生6割、高校生5割強

図1 「あこがれの人」がいるかどうか (学校段階別)



注1) 「あなたが『あの人のようになりたい』と思う人(あこがれや目標とする人)はどのような人ですか。」とたずねる項目で、「スポーツ選手」「学校の先生」「お母さん」「その他」など11種類の選択肢のうちどれか1つを選択した人を「あこがれの人」が「いる」とし、「いない」を選択した人を「あこがれの人」が「いない」とした。
注2) 本稿での「小学生」は「小4~6年生」を指している。以下同様。

図2 「あこがれの人」の上位 (学校段階別×性別) (%)

	小学生		中学生		高校生	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
第1位	スポーツ選手 28.6	お母さん 13.9	スポーツ選手 16.1	上の学年の人(先輩) 15.3	スポーツ選手 8.1	芸能人 16.1
第2位	科学者や研究者 8.2	友だち 9.7	上の学年の人(先輩) 7.0	芸能人 11.6	上の学年の人(先輩) 7.2	上の学年の人(先輩) 9.7
第3位	お父さん 7.0	芸能人 7.5	科学者や研究者 5.5	友だち 8.7	科学者や研究者 5.8	お母さん 7.3
第4位	友だち 3.5	スポーツ選手 6.9	友だち 4.1	お母さん 7.7	学校の先生 5.2	友だち 6.0
第5位	上の学年の人(先輩) 3.2	学校の先生 5.4	会社の社長(経営者) 3.9	学校の先生 4.7	芸能人 4.6	学校の先生 5.3

注) 学校段階別や性別ごとに「その他」を除いて上位5位までを示した。

図3 「あこがれの人」とする理由の上位 (学校段階別×性別) (%)

	小学生		中学生		高校生	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
第1位	才能がある 29.6	人にやさしい 18.8	才能がある 27.7	努力している(努力した) 20.4	才能がある 23.6	努力している(努力した) 22.0
第2位	努力している(努力した) 15.1	才能がある 15.2	努力している(努力した) 17.1	人にやさしい 16.1	生き方や考え方がすばらしい 19.7	生き方や考え方がすばらしい 18.6
第3位	いろいろなことを知っている 11.8	いろいろなことを知っている 14.3	生き方や考え方がすばらしい 10.5	才能がある 13.3	努力している(努力した) 13.4	才能がある 13.7

注1) 「あこがれの人」がいる子どもを対象に分析。注2) 学校段階別や性別ごとに上位3位までを示した。

小・中学生の「あこがれの人」は「友だち」

多くの人は、子ども時代に「あこがれの人」がいたのではないだろうか。

本調査でも、7割の小学生が『「あこがれの人」がいる』と回答したが、学校段階が上がるにつれ、中学生では6割、高校生で5割強と、その割合は減少していく(図1)。

子どもの「あこがれの人」は、小学生男子で1位が3割弱と突出した以外は、上位の存在は比較的多岐にわたり、性別や学校段階別に違いが見られた(図2)。

男子では、小・中・高校生を通じて「スポーツ選手」が1位だ。女子では、「お母さん」が小学生だけではなく、中・高校生でも5位以内に入っている。男子は社会的に活躍する人、女子は「芸能人」や身近な人を、「あこがれの人」として挙げているのが特徴である。

また、中・高校生になると、性別に関係なく、「上の学年の人(先輩)」や「学校の先生」が「あこがれの人」となり、重要な存在となっていることが分かる。

「あこがれの人」の理由から成長が感じられる

子どもが「あこがれの人」とする理由は何だろうか。男子は、小・中・高校生を通じて、「才能がある」を1位に選んでいる。女子は、「才能がある」より「人にやさしい」「努力している(努力した)」の方が、順位が高い。

また、小学生で上位にあった「いろいろなことを知っている」は中・高校生で3位以内に入らず、高校生では男子・女子とも「生き方や考え方がすばらしい」が2位に挙がる(図3)。「あこがれの人」とする理由が少しずつ変化していることから、子どもの成長している姿がうかがえる。

出典 「子どもの生活と学びに関する親子調査 2017」

東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所が共同で立ち上げた「子どもの生活と学び」研究プロジェクトによる第3回調査(2017年実施)。毎年、小学1年生から高校3年生までの親子約2万組に調査し、子どもの成長のプロセスや成長に必要な環境・働きかけを明らかにしている。2018年7月に第4回調査を実施。

◎詳細は下記ウェブサイト(プロジェクトの進行状況)をご覧ください。

<https://berd.benesse.jp/special/childedu/>

データ解説

ベネッセ教育総合研究所
初等中等教育研究室長

邵 勤風

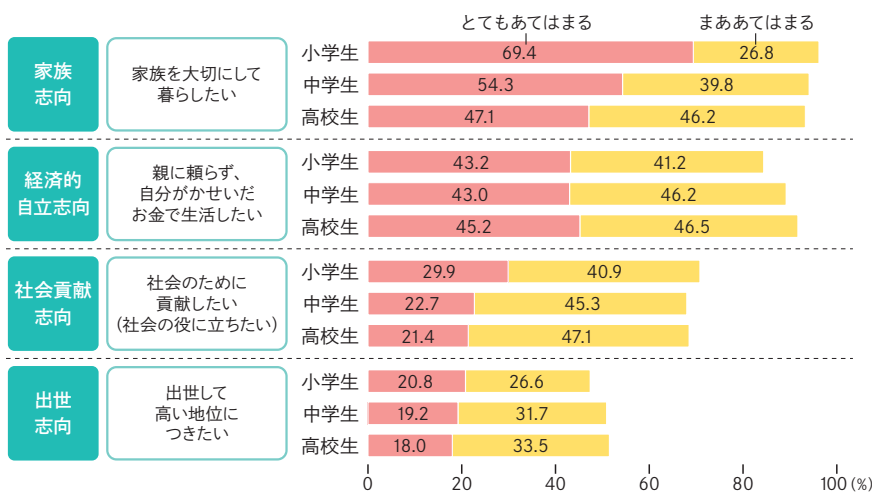
しょう・きんふう



初等中等教育領域を中心に、子ども・保護者・教員の意識や実態に関する調査研究を担当。子どもの発達を踏まえ、学びの連続性を保障するための適切な環境のあり方に関心を持つ。

2 「あこがれの人」がいる子どもの方が、将来への意識が高い

図4 将来についての意識(学校段階別)



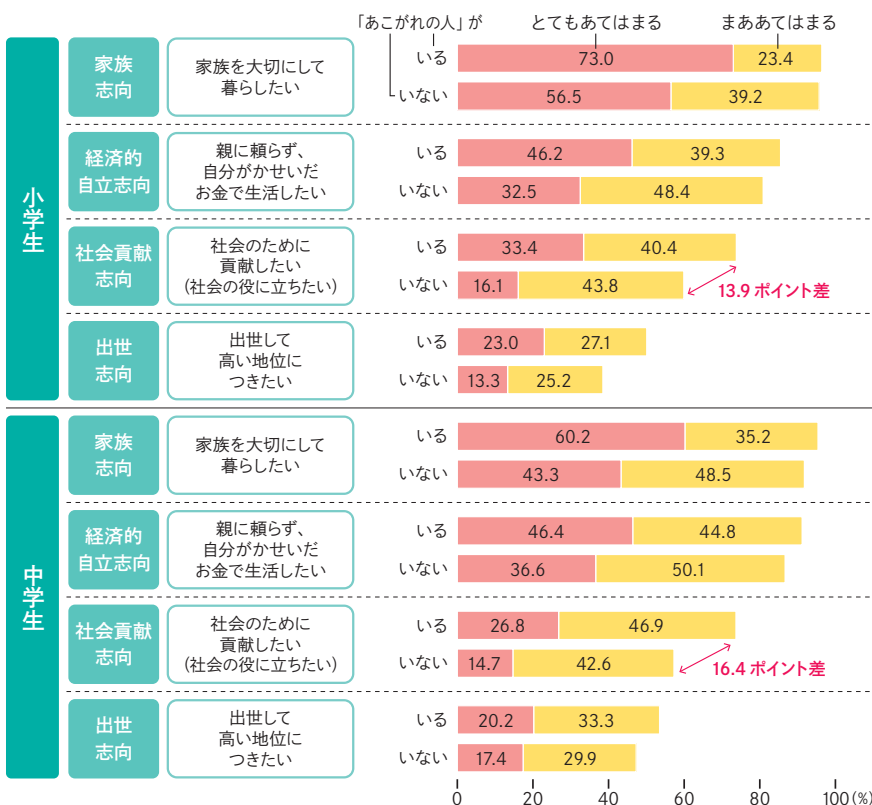
注) 子どもに「あなた自身の将来について、次のことはどれくらいあてはまりますか。」をたずねた12項目のうち、家族志向、経済的自立志向、社会貢献志向、出世志向を代表する4つの項目をピックアップし、図示した(図5も同様)。

学校段階が上がると経済的自立志向も上昇

それでは、「あこがれの人」は子どもたちにとって、どのような意味を持っているのだろうか。子どもの将来についての意識と、「あこがれの人」の有無との関連を見ていく。

まず、子どもの将来への意識を、家族志向、経済的自立志向、社会貢献志向、出世志向に分けて、代表する項目を見てみると、小・中・高校生とも家族志向が最も高く、9割超(「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%、以下同様)である(図4)。また、経済的自立志向と出世志向は、学校段階が上がるにつれ、少しずつ上昇する傾向がある。

図5 小・中学生の将来についての意識(「あこがれの人」がいるかどうか別)



「あこがれの人」の存在は子どもの成長を促す

次は、小・中学生の将来への意識と、「あこがれの人」の存在との関連を見ていく(図5)。小・中学生に共通しているのは、「あこがれの人」が「いない」子どもに比べ、「あこがれの人」が「いる」子どもの方が将来への意識が高いことである。特に、社会貢献志向では、小・中学生とも10ポイント以上の差が開いている。

「あこがれの人」が「いる」ことで、その人の職種や考えなどとらわれ、子どもの将来や考えを狭めてしまう恐れがあると考えられる人もいるだろう。だから、「あこがれの人」を持たない方がよいと主張する人がいるかもしれない。

しかし、本調査の結果を見ると、子どもたちが「あこがれの人」とするのは、学校段階などによって変化している。「あこがれの人」を持つと、目指す将来目標を持てるようになり、その目標に向かって努力する動機づけにもなる。「あこがれの人」の存在は子どもの成長を促す大切な要素の一つだと言えるのではないかな。